

## 今春の受注型企画旅行の問題点と問題提起

2006年11月01日  
裾野麗峰山の会・後藤隆徳

### 今回の概要

この春、静岡県連40周年記念山行で待望していた憧れの「ヨーロッパ・アルプス、オート・ルート（フランス・ルート）」に3名で行くことが出来た。期間は4月19日から5月1日。旅行会社は東京の富士国際旅行社（以下、富士）。窓口は同社の市原氏。富士社を選んだ理由は、労山で山スキーが盛んな「都職山の会」などで多く使われ、実績があると判断したからだ。

ただし、今回この旅行社は、出国から帰国まで全てオート・ルートを仕切るのではなく、いわゆる「受注型企画旅行契約」で、手配は飛行機・ホテル・列車など。オート・ルートの仕切りは、有名なシャモニ在住の神田氏を紹介され、ガイド・小屋・ケーブル・バス等の手配は彼に一任された。従って、オート・ルートについては、富士社は責任を持たない、関知せずの立場だった。

ただ、とは言うものの不思議なことに、事前の旅行代金払い込みの際、富士社にガイド料金を一日＝5万円掛ける日数分振込みの請求が来た。ガイドに関しては、我社は関知しませんとしながらも、出国前にガイド料金を旅行社に払い込むことは、何か釈然としないものがあった。これについて市原氏から明確な説明は当時も今もない。

オート・ルートの行程はシャモニからツェルマットまで6日。悪天候等に備え、予備日を2日設定した。なお、予備日については過去の記録で、悪質なガイドは悪天候になったりすると予備日を使わないで、即座に山を下りると聞いていたので、市原氏・神田氏には悪天候・体調不良時は必ず予備日を使うことを「口が酸っぱくなるほど」お願いした。両氏は「それは当然。十分承知している」と確約した。

シャモニに到着し神田氏と会う。彼の話では「スキー・レース」でデイス小屋の予約が取れないという。事前に計画書を何回も送り、デイス小屋の宿泊は承知していたはず。また、フランス・ルートの場合、デイス小屋宿泊は通常の設定である。また、スキー・レースは毎年恒例のもので、そんなことは周知していたはずなのに、「今更何だ」の心境で、神田氏の無責任さには腹が立った。そんなことが出発前から分かっていたなら、当然日程調整はした。富士社にも事前に何回も計画を送り、そのような日程は確認されている。もちろん富士社にも責任はある。

デイス小屋に宿泊せず手前のプラフリー小屋からでは、4000m近いピン・ダ・ローラ峰を越えるのは非常に困難になる。そんな事は神田氏が一番知っているはず。計画書通り小屋の予約が取れないなら、すでに「詐欺・契約違反」と言わざるを得な

い。

ガイドは「都職山の会」などで実績があるガイドで、当方が希望したフレッド・オージェだった。

山では、予想通りプラフリー小屋からピン・ダ・ローラ峰は悪天候もあり、アローラスキー場からトラバースしてヴィネット小屋に入った。ただし、前日、デイス小屋に泊まったパーティーはピンダ峰に上りヴィネット小屋に着いた。

仲間が遅れたこともあり小屋で、翌日の打ち合わせをフレッドとする。ヴィネット小屋からツェルマットまで峠を三つ越える。遅れた仲間の体調を考え、一つ目の峠を越えたところで大丈夫ならツェルマットを目指す。駄目ならアローラに下る提案がされた。しかし、折角予備日を設定してあるから、天候が悪かったり仲間の体調が悪ければ、この小屋に連泊する提案をした。フレッドは「考える」と言った。

翌朝、最悪のガスの中、出発するがフレッドは10分行った所で行動を中止し、小屋に戻りここからアローラへ下山すると言い出した。100名位いた他のパーティーは全員出発した。残ったのは我々だけだった。

フレッドに悪天気ならば連泊し様子を見ようと提案するが、「ここは連泊出来ない」と言う。神田氏に連絡してくれと言えば、携帯電話の電池が上がった。また、小屋の電話は回線が悪く使えないと言う。

要するにフレッドは、すでに山をガイドする「任務・責任・情熱・誠意・意識」を失ったのだ。仮にここに連泊出来なくとも、この先に小屋は二つもある。過去の記録では悪天候・体調不良時は利用するパーティーは多い。

他のパーティーが全員出掛けたのに、フレッドが何故行動を起こさなかったのか、理解出来ない。後日、フレッドからこの日の顛末を手紙で送ってきたが、この先の小屋を利用する考えなど全く触れていない。

帰国後、ガイドの責任はガイド料金を事前にとった富士旅行社にあり「契約違反・契約不履行」は明白と訴えたが、市原氏は「知らぬ存ぜぬ」の一点張り。違反金請求に一人2万円を勝手に送ってきただけである。

今後、労山の全国の仲間がこんな目に遭わぬよう、問題提起する次第である。

#### 今回の問題点と問題提起

1. 富士国際旅行社はガイドに関して関知しないとしながらも、出発前にガイド料金を取った。ということは、ガイドに関する責任は富士社にあると判断できる。また何故、出発前にガイド料金を納めなければならないのか、全く説明がないのは、説明責任を果たしていない。
2. 出国前市原氏・現地で神田氏に再三再四、予備日の運用を確認し確約したのにも関わらず、ガイドにそれが全く伝わっていなかった。本来予備日は悪天候・体調不良時に運用されるはず。確かに山ではガイドに行動は一任される。しか

し、これでは予備日設定は、何のためにあるのか分からなくなる。この件も全く説明がない。

4. 後日、フレッドの手紙にヴィネット小屋からの下降に後藤以外二人が「同意」したとあったが、全く事実無根である。大体、相談もされなかったし、相談されても拒否した。下降はフレッドの一方向的な決定である。
5. 市原氏は弁護士に相談し「今回の件は全く問題ない」としてきたが、根拠は何か。旅行社として顧客のクレームに誠心誠意応えたか。道義的責任はどうか。これも全く説明がない。
6. オート・ルートはシャモニ在住の神田氏を紹介された。こんな無責任な人間を紹介した富士社の責任は大きい。スキー・レースは毎年恒例の行事。山に精通している神田氏なら十分承知していたはず。出発前にディス小屋の予約が取れないのを承知でツアーを実施したならば、完全な「詐欺・契約違反」である。これとて明確な説明はない。
7. 市原氏は勝手に参加者一名に2万円を送金してきた。この金は何の意味か理解出来ない。送られてきたメールには説明があるようだが、「化け」で判読出来ない。「化け」も連絡したが全く返信はない。  
また、仮にこれが「詐欺・契約違反」に対する謝罪・賠償金なら自らの責任を認めたことになる。また、これを問題解決金としても決して妥当な額ではない。これもまた明確な説明はない。
8. 市原氏から今回の問題で・・・全国労山幹部の皆様及び関係各位の皆様ともご相談させていただいた結果・・・のメールが来たが、私には「幹部」「関係各位」から全く話はなかった。本来物事の問題を解決する場合、双方の見解を聴取しないと事実は判定出来ないのではないか。その意味では、富士社、市原氏は随分身勝手な者と言えるだろう。
9. 最後に富士国際旅行社は労山の機関誌「登山時報」に宣伝を掲載している会社である。そんな会社が労山を食い物にしているのは許せない。今後、労山の仲間はこの会社を利用しないほうが賢明であろう。

以上

